

との間の、つまり二つの知的エリート集団間の闘争。学問・科学の専門化。

6. 進化論裁判・反進化論運動：創造論者あるいは原理主義
7. キリスト教サイドでの対立論の代表は、「創世記の創造物語こそが真の科学である」とする創造科学論者である。その議論は次の三点に集約できる。
 - 聖書の不可謬性（この点で、キリスト教原理主義に属するとも言える）
 - 生物のすべての基本的類型（種）は神に創造されたものであり、不変。
 - 世界規模の大洪水が実際に起こったこと（洪水地質学）。

3. 対立図式を超えて

8. 対立は必然的か？
 - キリスト者は、科学、進化論なしに、現代文明を生きうるか？
9. 科学的知識の相互関連性、進化論はそれだけで孤立しているわけではなく、生命に関わる諸科学全体の中に位置し、それが進化論の信憑性を支えている。
10. 神学と科学との分離＝対立の原理的回避 → 無関係・無関心
 - これは、日本の宗教状況に合致した（？）
11. そのために採られたのが、意味と事実との区別——宗教は人間の生きる意味・価値に関わり、科学は事実に関わる——、あるいは客観的真理と主体的真理（キルケゴール）の区別という論理である。たとえば、ブルトマンの聖書の非神話化、あるいは実存論解釈はその典型である。
12. 世界観と信仰との分離。キリスト教信仰の真理はときどきの世界観には左右されない。近代以降、世界観は科学の事柄である。

4. まとめと展望

13. 1970年代以降、思想的状況は大きく変化した。
 - 人類が共通に直面する危機。宗教者も科学者も同じ大問題に直面している。
 - ↓
 - 対話の必要性の確認、対話の模索。
14. 区別の上にたった相互関係の確認。
 - 先に述べた意味・価値と事実の区別は重要であるが、しかし、事実に基づかない価値はない。
15. 例えば、環境危機。危機への技術的対応＋感性の変革。科学技術の両義性。
16. 21世紀の宗教と科学の関係はどうなるか。対立／分離・無関係／対話

<参考文献>

1. リンドバーグ／ナンバーズ編 『神と自然』 みすず書房。
 - A・ハンター・デュプリー 「ダーウィン時代のキリスト教徒科学者共同体」
 - フレデリック・グレゴリー 「一九世紀プロテスタント神学に対するダーウィン進化説の影響」
 - ロナルド・L・ナンバーズ 「創造論者」
2. 池田清彦 『構造主義と進化論』海鳴社。
3. 松永俊男 『ダーウィンの時代——科学と宗教』名古屋大学出版会。
4. マクグラス 『科学と宗教』教文館。
5. 芦名定道 『宗教学のエッセンス』北樹出版、『自然神学再考』晃洋書房。
6. フランシスコ・J・アヤラ『キリスト教は進化論と共存できるか？ ダーウィンと知的設計』教文館。